

イチオシ!

M OVIE

『馬を放つ』

山と草原の国キルギスに生きる人々のルーツは、豊かな大地を馬で駆け、自然と共に生きてきた遊牧民。しかし、時代が流れ、定住するようになった人々の記憶からは、村に息づいてきた人間と馬の絆を物語る伝説が消えようとしていた。妻と息子と慎ましく暮らし、“ケンタウロス”と呼ばれている村の男は、その伝説を信じ、夜な夜な厩舎に忍び込んで馬を野に放っていた。現代を生きる人々が手に入れ、そして失ったものは何なのか——純粋な一人の男の姿を通して問い掛ける。



2017年／キルギス・フランス・ドイツ・オランダ・日本／89分
 監督：アクタン・アリム・クバト
 出演：アクタン・アリム・クバト、ヌラリー・トゥルサンコジョフ他
 公開：3月17日（土）より岩波ホール（東京都千代田区）他全国順次公開
 URL：www.bitters.co.jp/uma_hanatsu/
 配給：ビターズ・エンド

B OOK

『貧しい人を助ける理由 遠くのあの子とあなたのつながり』

世界に自国第一主義が広がる中、著者はそれでも“金持ち国”は貧しい人々を助けるべきだと主張する。アメリカは移民なしに超大国にはならず、イギリスは植民地からの原材料なしに工業化はできなかったはず。つまり、先進国の発展は、国外の場所と遠く離れた人々の存在なくしては不可能だったのだ。安定した豊かな世界を望むなら、貧困のない世界をつくらなければならない。遠くの見知らぬ人がいかに自分の生活と密接に多様につながっているのか、そして私たちに何ができるのかを教えてくださいの一冊だ。



この本を
1人の方に
プレゼント
詳細は
38ページへ

デイビッド・ヒューム 著
佐藤寛 監訳
日本評論社
1,836円(税込)

E VENT

『EARTH HOUR 2018』

「地球環境を守りたい」という思いを込めて、世界中の人々が同じ日の同じ時間帯に電気を消し、消灯のボタンをつなぐ“ソーシャル・グッド・プロジェクト”。日付変更線に近い南太平洋諸国を皮切りに、3月24日の20時30分を迎えた地域から順次EARTH HOURが始まり、消灯リレーが地球をぐるりと一周する。日本では初めて消灯に参加する東京スカイツリーをメイン会場にしたWWFジャパン主催のイベントに加え、横浜市、広島市でもイベントが開催される。また、SNSで環境を守る意思を発信する企画「#旅する60パンダ」も実施。あなたも20時30分からの1時間、電気を消して、EARTH HOURに参加してみてください。



© WWF Japan

会期：3月24日（土）20:30～21:30
 URL：www.wwf.or.jp/campaign/earthhour/
 問：公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）
 TEL：03-3769-1714

B OOK

『バッタを倒しにアフリカへ』

「バッタに食べられたい」。子どものころからそんな一風変わった夢を持っていた昆虫学者の著者が、単身向かったのはアフリカ北西部のモーリタニア。同国では、農作物を食い荒らし、深刻な飢饉を引き起こすバッタの大発生が問題に。現地でサハラ砂漠に生息するサバクトビバッタの生態を研究しようとする著者だが、大干ばつでバッタが忽然と姿を消してしまうなどハプニングばかり。研究に協力してくれる現地の人々との暮らしやエピソードもたっぷり詰まった、バッタ愛あふれる奮闘記。



この本を
1人の方に
プレゼント
詳細は
38ページへ

前野ウルト浩太郎 著
光文社
994円(税込)